

編集後記

2026年の新春を迎え、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

さて、本号では日本の航空と宇宙の「輸送」をテーマとする記事が揃いました。

JAXAの川上道生様には、2025年6月の50号機をもって運用を終了したH-IIAロケットの軌跡を振り返っていただきました。世界屈指の成功率98.3%を記録したその信頼性がいかに達成されたのかもご紹介いただいています。手前味噌ですが見開き2ページで掲載した打上げシーンは、ロケット打上げの荘厳さの片鱗をお伝えできたのではないかと思います。H-IIAの信頼性は後継のH3ロケットへと確実に受け継がれています。本年は、H3ロケットによる火星衛星探査計画(MMX)探査機の打ち上げが予定されています。日本の宇宙輸送が名実ともに新世代へと完全移行し、新たな領域を切り拓く飛躍の年となることでしょう。

NAAの坪田健志様には、成田空港に新設された「第8貨物ビル」についてご寄稿いただきました。この物流の新拠点、単に日本最大級の規模と最新の自動化設備を備えた施設というわけではありません。なぜなら、成田空港は現在、2030

年代初頭の東側新貨物地区整備を含む「成田空港第2の開港プロジェクト」を推進していて、第8貨物ビルでのサステナビリティや働きやすさへの挑戦は、この空港全体の機能を刷新する壮大な将来構想に向けた、重要な試金石となるからです。「成田空港第8貨物上屋プロジェクト」が2025年度の「空の夢賞」を受賞されたのも、未来を切り拓こうとする存在だからです(26ページからの「日本航空協会表彰式」の記事をご参照ください)。

新世代が出揃う宇宙輸送と、さらなる拡張へ向かう空の玄関口。「空」と「宙」の夢に向かう両者の物語が、新年の皆様の活力となれば幸いです。

ところで、2026年の干支は丙午(ひのえうま)です。馬と航空宇宙の繋がりというと、P-51 マスタングといった馬にちなんだ愛称の飛行機を思い出される方もいらっしゃると思いますが、実は飛行機が飛び始めて間もない頃(日本では1910年代)には、もっと直接的な繋がりがありました。当時、欧米でも日本でも飛行場というものがほとんどなかったのも、競馬場で飛行大会が開催されることが多かったのです。今はない目黒競馬場や鳴尾競馬場、今もある川崎競馬場などで、多くの日本人が初めて飛行機を目にしたのでした。跳躍する馬のように、あるいは飛翔する天馬のように、本年が皆様の飛躍の年になることを祈念いたします。

『航空と文化』編集部



表紙の写真について

2025年6月29日に打ち上げられたH-IIAロケット50号機の写真です。本文3ページからの「H-IIAロケットを振り返って」をご覧ください。
©宇宙航空研究開発機構(JAXA)

航空と文化 第132号 2026年新春号(年2回発行) ISSN 0389-2484

2026年1月15日発行

編集人 荻田重賀 発行人 高田直人

発行所 一般財団法人 日本航空協会

〒105-0004 東京都港区新橋1-18-1 TEL: 03-3502-1206 FAX: 03-3503-1375

E-mail: syupan@aero.or.jp URL: <https://www.aero.or.jp/>

定価 550円(税込) 定期購読料 2年(4冊)送料込2,200円(税込)

振替口座 00180-7-147798

制作・印刷所 株式会社スペース企画